

令和6年度 教育委員会の点検・評価報告書



主体的な読書活動による
表現力の育成



他者参照から思考へとつなげるための
I C Tの活用

令和7年8月
四日市市教育委員会

は じ め に

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」）に基づき、四日市市教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行っています。また、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、広く市民に公表しています。

地教行法には、教育委員会が点検・評価を行う際には、学識経験を有する者の知見の活用を図ることが示されており、本市教育委員会でも、四日市市教育施策評価委員を委嘱し、専門的・客観的な立場からの提言・助言をいただきながら、本市の学校教育ビジョンを基盤とした教育施策について、点検及び評価を進めています。

令和4年1月に策定した「第4次四日市市学校教育ビジョン」では、本市の教育大綱の理念を踏まえて、本市の学校教育が目指すこどもの姿を明らかにし、方向性を示しました。本ビジョンは「こどもにつけたい力」と「こどもの学びを支える学校づくり」の2つの観点から、具体的な施策を定めており、5つの基本目標「1. 確かな学力の定着」「2. こころとからだの健全な育成」「3. よりよい未来社会を創造する力の育成」「4. 全てのこどもの能力を伸ばす教育の実現」「5. 学校教育力の向上」を位置付けています。

令和6年度は、次の2点を重点評価項目に設定しました。

（1）読書活動を通じこどもたちが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものとするため、基本目標「2. こころとからだの健全な育成」のうちの「読書活動の充実」に係る取組について、読書活動推進校を視察しました。

（2）情報や情報手段を主体的に選択し、自分の考えを形成するために必要な資質・能力の育成を図ることを目的に、基本目標「1. 確かな学力の定着」のうち「ICT活用による情報活用能力の育成」に係る取組について、学校視察を行いました。

また、施策の具体的な実施状況や達成状況については、視察を行った教育施策評価委員から、客観的かつ専門的な提言・助言をいただくとともに、協議を重ねることで、点検・評価を行いました。

これらの評価をもとにして、「夢と志を持ち未来を創るよっかいちの子ども」の育成に向けた本市の教育施策が、さらに有効となるよう、また、今後も本市の学校教育がより充実したものとなるよう、取組を進めてまいります。

令和7年8月 四日市市教育委員会

目 次

1	点検・評価の概要	1
2	教育委員会の活動状況について	2
3	四日市市教育施策評価委員の取組について	6
4	令和6年度の重点評価項目とその評価	7
5	継続評価項目と評価	12
6	基本目標の達成状況	22
7	教育施策評価委員の提言及び助言（総括）	33

1 点検・評価の概要

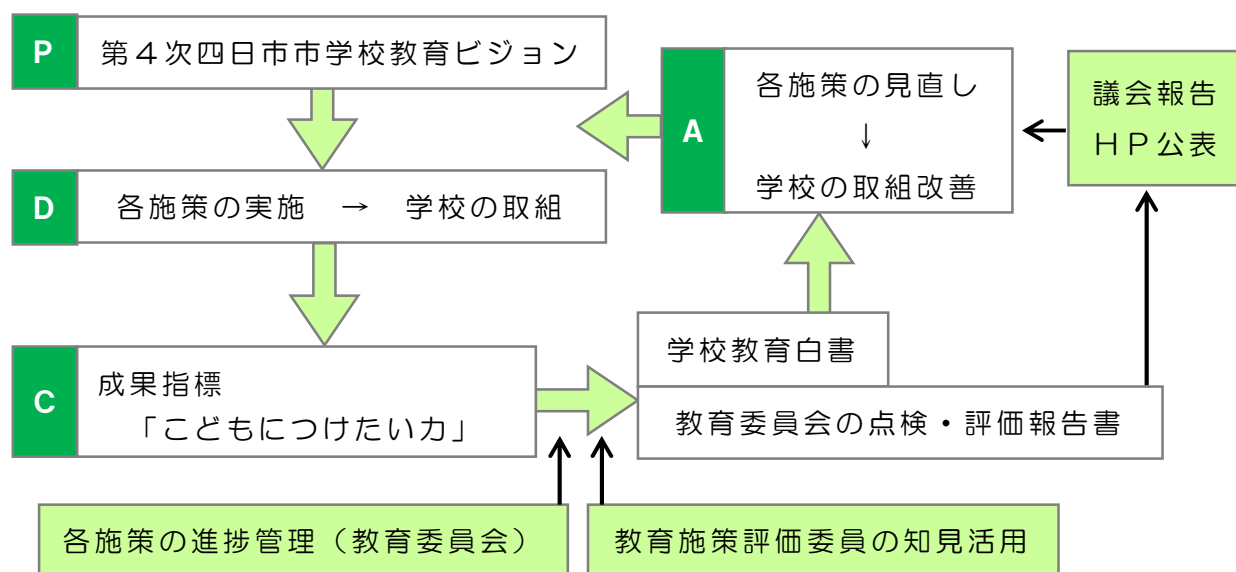
平成 19 年の地教行法の一部改正に伴い、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

本市教育委員会では、平成 21 年度から四日市市教育施策評価委員を委嘱し、専門的・客観的な立場からの提言や助言をもとに、学校教育ビジョンを基盤とした教育施策全般について、点検及び評価を進めています。学校教育ビジョンは、学校教育の根幹として位置付けられるものであることから、成果指標に基づく評価を実施します。全ての基本目標における指標に基づき「こどもにつけたい力」「こどもの学びを支える学校づくり」を評価することで、ビジョンの進捗管理を行っています。

評価の実施にあたっては、年度ごとに、特に重点的に点検・評価すべき項目を協議・選定し、教育施策評価委員による学校視察等や、教育委員会委員との懇談・協議を行ったうえで、施策実施状況を含めた総括を行い、報告書として取りまとめます。報告書は、市議会に報告するとともに、ホームページに掲載するなど、広く市民に周知します。

教育委員会	教育施策評価委員	市議会
10 月 重点評価項目選定 11 月 各評価項目決定	11～ 2 月 視察・施策評価	
3 月 視察概要報告		
5 月	執行状況調査（事務局との懇談）	報告書提出
7 月	協議（点検・評価の総括）	
8 月 報告書作成・公表		

■点検・評価の流れ



2 教育委員会の活動状況について

(1) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、年間 13 回開催し、議案 39 件、協議事項 5 件、報告事項 31 件について、審議等を行いました。

開催日	種別	議案、協議事項、報告事項
4 月 3 日	議案 報告	- 専決処分の報告及び承認について (令和 6 年 4 月 1 日付け市職員の人事異動について) - 児童生徒の姿や課題の可視化に向けた連携協定等について
4 月 17 日	議案 報告	- 四日市市教育支援委員会委員の委嘱又は任命について - 令和 6 年度教育委員会主要課題について - 本市におけるいじめ事案について
5 月 22 日	議案 協議 報告	- 四日市市立図書館協議会委員の任命について - 四日市市立博物館協議会委員の任命について - 四日市市少年自然の家運営協議会委員の委嘱について - 四日市市社会教育委員の委嘱について - 四日市市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱又は任命について - 動産の取得について—真空冷却機 7 台— - 令和 6 年度教科用図書採択について (中学校) - 令和 5 年度繰越事業について - いじめに関する調査報告について
7 月 10 日	報告 協議 報告	- 令和 6 年 6 月定例月議会報告について - 令和 5 年度の教育委員会における点検及び評価について - 休日の中学校部活動地域移行について - 行政による学校問題解決のための支援体制の構築に向けたモデル事業 (行政型学校 ADR について) - 本市におけるいじめ事案について
7 月 24 日	報告 議案	- 令和 5 年度本市におけるいじめ・不登校の状況報告について - 令和 7 年度使用中学校用教科用図書の採択について
8 月 7 日	報告 議案 報告	- 委任事務の報告 (令和 5 年度中に教育委員会が行った行政処分について) - 四日市市立幼稚園条例の一部改正について - 令和 5 年度決算について - 令和 6 年 8 月定例月議会補正予算について - 全国学力・学習状況調査×Literas の分析結果等について
10 月 16 日	議案 協議 報告	- 専決処分の報告及び承認について (四日市市立幼稚園管理規則の一部改正について) - 令和 6 年度の教育委員会における点検及び評価について - 令和 6 年 8 月定例月議会報告について - 本市におけるいじめ事案について
11 月 6 日	報告	- 令和 6 年度全国学力・学習状況調査結果の分析について - 令和 6 年度の教育委員会における点検及び評価について - 四日市市総合計画中間見直しについて
11 月 13 日	議案 報告	- 動産の取得について (追認)—小学校教師用指導書 1, 4 2 3 冊— - 動産の取得について (追認)—小学校教師用指導書 1, 8 2 4 冊— - 動産の取得について (追認)—小学校教師用指導書 3, 6 2 3 冊— - 動産の取得について (追認)—小学校教師用指導書 2, 6 9 4 冊— - 動産の取得について (追認)—小学校教師用指導書 8 2 0 冊— - 令和 6 年 1 1 月定例月議会補正予算について - 令和 7 年度当初予算要求の概要について - 博物館プラネタリウム事業の効率化について - 本市におけるいじめ事案について

1 月 15 日	協議 報告	・ 令和 6 年度第 2 回四日市市総合教育会議について 多様なこどもに対する多様な学びの場の提供 ～本市の不登校対策の推進～ 学校における 働き方改革(報告) ・ 令和 6 年 1 1 月定例月議会の報告について ・ 四日市市学校教育情報化推進指針について
1 月 28 日	議案 協議 報告	・ 四日市市立幼稚園条例の一部改正について ・ 工事請負契約の締結について 一川島小学校南校舎長寿命化改修ほか工事（2 期工事）一 ・ 工事請負契約の締結について 一県小学校南校舎長寿命化改修工事（1 期工事）一 ・ 工事請負契約の締結について 一羽津北小学校南校舎長寿命化改修工事（1 期工事）一 ・ 工事請負契約の締結について 一三重北小学校教室棟長寿命化改修工事（1 期工事）一 ・ 工事請負契約の締結について 一桜中学校管理教室棟長寿命化改修工事（1 期工事）一 ・ 工事請負契約の締結について 一楠中学校管理教室棟大規模改修工事（1 期工事）一 ・ 動産の取得について一中学校教師用指導書 5 4 3 冊一 ・ 動産の取得について一中学校教師用指導書 3 9 3 冊一 ・ 動産の取得について一移動図書館車 1 台一 ・ 四日市市学校規模等適正化事業について ・ 令和 7 年度当初予算について ・ 令和 7 年 2 月定例月議会補正予算について ・ 民間プール施設を活用した水泳指導業務委託について ・ 本市におけるいじめ事案について
2 月 26 日	議案	・ 令和 7 年度教職員の人事異動について
3 月 21 日	議案 報告	・ 四日市市立幼稚園管理規則の一部改正について ・ 四日市市立学校文書取扱規程の一部改正について ・ 教育委員会の権限に属する事務の補助執行に係る協議について ・ 四日市市教育委員会事務局処務規則の一部改正について ・ 四日市市教育委員会教育長所管事務専決規程の一部改正について ・ 四日市市みんなのブカツ推進室の設置に関する規則の制定について ・ 四日市市英語指導員任用規則の一部改正について ・ 四日市市立小中学校管理規則の一部改正について ・ 四日市市立博物館条例施行規則の一部改正について ・ 四日市市少年自然の家条例施行規則の一部改正について ・ 四日市市水沢市民広場の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について ・ 四日市市教育委員会における申請書等の押印の取扱いの特例に関する規則の一部改正について ・ 令和 7 年 2 月定例月議会の経過について ・ 本市におけるいじめ事案について

(2) 教育委員会会議以外の教育委員の活動状況

①教育懇談会の開催

教育委員会必携（全国市町村教育委員会連合編）では、「教育委員が会議において活発な議論を行い、適切な判断ができるよう、当面する教育行政の課題について理解を深めるための教育委員の研修の一層の改善・充実を図ること」としており、本市においても教育委員の研修の場として、教育懇談会を年間7回開催しました。

開催日	テーマ	会場	出席者
4月24日	四日市の地域資源を生かした教育の推進 (旧四郷村役場視察)	旧四郷村役場	四郷郷土資料保存会 四郷小学校長 文化課
5月1日	第3回四日市市教育施策評価委員会 本市教育の施策評価に係る現場視察 (ICTの効果的な活用)	浜田小学校	施策評価委員
7月3日	中学校用教科用図書の見本の閲覧	教育委員会室	指導主事
7月17日	本市の教育施策について (教育施策評価委員会 教育委員と四日市市 市教育施策評価委員との懇談)	教育委員会室	施策評価委員
10月9日	幼児教育の質的向上と小学校教育との円滑な 接続について (幼児教育センター視察)	水沢小学校	保育幼稚園課 幼児教育センター
11月20日	人権教育の充実について (いじめ予防授業 県小学校視察)	県小学校	スタンドバイ株式会社 県小学校長
1月22日	学校の働き方改革に係る視察 (枚方市教育委員会)	枚方市教育委員会	枚方市教育委員会

②総合教育会議への出席

四日市市では、市長と教育委員会が相互の連携を緊密にしながら、地域の実情に応じた教育行政を推進するため、四日市市総合教育会議を開催しています。令和5年度には2回開催され、市長との協議を行いました。

開催会(日)	協議事項
第1回(8月1日)	・「四日市市こども計画」策定に向けて ・こどもの居場所づくりについて
第2回(1月31日)	・多様なこどもに対する多様な学びの場の提供 ～本市の不登校対策の推進～ ・学校における働き方改革(報告)

③各種行事、学校訪問等

上記のほか、市主催の行事や教育委員会指定推進校における公開授業研究会、施策評価に係る学校視察などに各委員が出席しました。

開催日	行事、学校訪問等	場所	出席者
5月20日	読解力向上推進校 校内研修会	南中学校	伊藤委員 堀委員
6月4日	キャリア教育 中学校区研修会	小山田小学校	数馬委員 堀委員
6月7日	論理的思考力向上推進校校内研修会	西朝明中学校	堀委員

10月28日	示範授業・講演「いじめと戦う！プロの対応術～子どもたちを守り、トラブル拡大を防ぐために～」	下野小学校	伊藤委員 堀委員
11月12日	論理的思考力向上推進校 中学校区研修会	西朝明中学校	堀委員
11月27日	論理的思考力向上推進校 中学校区研修会	内部東小学校	伊藤委員
11月29日	読解力向上推進校 校内研修会	日永小学校	堀委員
1月8日	20歳（はたち）を祝う会	四日市市文化会館	伊藤委員 豊田委員 堀委員 菅生委員
1月29日	読書活動推進校 （四日市市教育施策評価委員会 学校視察）	羽津中学校	伊藤委員 堀委員
3月6日	中学校卒業式		伊藤委員 菅生委員
3月19日	小学校卒業式		伊藤委員 豊田委員 堀委員 菅生委員

3 四日市市教育施策評価委員の取組について

四日市市教育施策評価委員からの専門的・客観的な提言や助言をもとに、点検及び評価を進めています。

(1) 四日市市教育施策評価委員設置目的

- ① 教育委員会が、地教行法の一部改正に伴う、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」を実施するにあたり、教育に関して学識経験を有する者の知見の活用を図る。
- ② 本市の学校評価のシステム全体を検証するとともに、教育委員会が学校に対して行う施策の改善に資する。

(2) 令和6年度四日市市教育施策評価委員

織田 泰幸 (三重大学教育学部教授)

高田 晴美 (四日市大学総合政策学部教授)

(3) 取組の経過

① 第1回教育施策評価委員会（視察）

【日時】 令和7年1月29日（水）9:30～11:30

【場所】 四日市市立羽津中学校

【内容】 読書活動の充実

② 第2回教育施策評価委員会（視察）

【日時】 令和7年3月7日（金）9:30～11:30

【場所】 四日市市立中部中学校

【内容】 ICT活用による情報活用能力の育成

③ 第3回教育施策評価委員会（事務局との懇談）

【日時】 令和7年5月28日（水） 9:30～12:00

【場所】 四日市市役所9階 教育委員会室

【内容】 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の調査等について

第4次四日市市学校教育ビジョンの執行状況を調査するために、施策評価委員と事務局との懇談を実施した。

④ 第4回教育施策評価委員会（兼教育懇談会）

【日時】 令和7年7月16日（水） 9:30～12:00

【場所】 四日市市役所9階 教育委員会室

【内容】 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価について
令和6年度教育委員会の点検・評価報告書及び令和6年度版四日市市学校教育白書（通巻第23号）（案）の調整、第4次四日市市学校教育ビジョンを総括した。

4 令和6年度の重点評価項目と評価

令和6年度に選定した重点評価項目と視察の概要及び評価は以下のとおりです。

重点評価項目

【基本目標2】こころとからだの健全な育成（読書活動の充実）

【基本目標1】確かな学力の定着（ICT活用による情報活用能力の育成）

【基本目標2】こころとからだの健全な育成（読書活動の充実）

（選定理由）

本市では、子どもたちの思考力・表現力を育成し、多様な考えや価値観に触れ、想像力を豊かにするために、全小中学校に専門的な知識を持つ学校図書館司書を配置し、学校図書館環境の整備や、市立図書館との連携など、読書活動の充実に向けた取組について、第3次四日市市学校教育ビジョンから継続して推進を図っている。

令和5年10月から「よっかいち電子図書館」の運用が開始されたことを踏まえ、子どもたちが本と出会い、主体的に本に関わる態度を育成する機会を確保するとともに、読書活動を通じ子どもたちが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものとするため、現状の取組について、評価・検証する必要がある。

（視察概要）

○本市における読書活動の充実に係る施策の実施状況について

重点評価項目	【基本目標2】こころとからだの健全な育成（読書活動の充実）
評価内容	第4次四日市市学校教育ビジョン 基本目標2において、めざす子どもの姿を「読書を通じて興味や関心を広げ、探求する力を持った子ども」とした、読書活動の充実に係る取組を推進してきた。それらの取組の現状を確認するとともに、その効果や課題の検証を通して、今後の施策展開の方向性や内容の充実に向けた評価を行う。
施策の概要	(1) 創意工夫による読書活動の拡充 - 読書活動推進校による特色ある工夫した読書活動の研究、学校図書館の有効活用のための情報発信 - 学校図書館を活用した取組を拡げることで、読書機会の拡充 (2) 学校図書館環境の整備 - 専門的な知識をもつ学校図書館司書の配置 - 小中学校段階における9年間を見据えた読書活動の推進 - 全小・中学校標準冊数達成をめざした蔵書の整備 (3) 市立図書館との連携の充実 - 子どもの手の届くところに本がある環境づくり
目標値と現状値	「授業時間以外に読書をする」と回答した児童生徒の割合 令和6年度 小学校 72.1%（目標値（令和8年度）85%） 中学校 62.6%（目標値（令和8年度）70%）

【視察先】四日市市立羽津中学校

【視察日時】令和7年1月29日（水）9:30～11:30

【視察内容】羽津中学校は、第4次四日市市学校教育ビジョンに基づいて策定した学校づくりビジョンにおいて、学校教育目標を「将来に希望をもち、やる気をもって

実践する生徒の育成～本と歌声とありがとうがいっぱいの学校～」とし、こころとからだの健全な育成に向けた学校教育活動を進めている。読書活動の充実という観点においては、生徒が主体的に本と出会う機会確保のための取組、読書活動を通じ、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものとする取組、図書館担当者と学校図書館司書が連携した取組を実践している。

視察では、1年生の授業を参観するとともに、本市における読書活動の充実に係る施策について状況を報告し、その検証を行った。

【施策評価委員の考察と評価】

「#（ハッシュタグ）で伝える推し本」というテーマでの図書館でのグループワークを参観した。各班のメンバーで、図書の0類～9類の分類ごとに1冊ずつおすすめの本を選び、その本を推すキーワードをハッシュタグとして指定し、カードに記入していた。全分類10冊分のカードが貼られた台紙を完成させ、各班はそこから特にお薦めの1冊を選んで発表していた。

最初は、生徒が実際に読んでいない本をおすすめするという点で、この活動が意味を持つのか疑問であった。しかし、自分の興味からではなく、あえて興味のない分類から本を選ぶことで、普段手に取らないジャンルの本と出会う機会を提供し、その中から本を選んだ時の「面白そう」と思ったひらめきの瞬間を言語化させることは意義があると感じた。多種多様な本との出合いのきっかけ作りには有用であろう。

一方で、班ごとに分担して選んだおすすめ本や他の班のおすすめ本が紹介されたとしても、実際に生徒がそれらの本を読むかどうかは懸念であった。今回の催しが、多くの生徒にとってはこの場限りの作業として顧みられないことであろう。推し活動によるアピールに他者が心を動かされるのは、推し本として薦める内容にパッションを感じる時である。読んでいない本に対しては、パッションは沸かない。今後の読書活動につなげるには、ビブリオバトルなどの書評的なコメントに比べると弱くなると感じた。

ただし、0類～9類全分類に関心を持たせることは有効であると考えられる。個人に対して台紙とカードを配布し、実際に読んだ本について同様の活動を行い、スタンプラリー的な競争を通じて台紙を埋めさせる。台紙を埋めた生徒には景品を贈ったり、台紙を掲示したりする等もよい。実際に読んだ本に基づくハッシュタグづくりを見てみたい。

今回の授業ではなく、図書室のあり方についても気になった。開室時間が非常に短いことが残念である。読む本をじっくりゆっくりと選ぶことは、読書好きや本好きにとって重要で、本好きを育てていくことにもつながると考える。せめて週に1日でも、放課後に2時間程度図書室を利用できるようにしたいところである。

羽津中学校の図書室は、私が中学生だった頃のイメージからかけ離れていた。「古い書籍が多い」「気軽に立ち寄れない」という印象とは異なり、新しい書籍が豊富に所蔵されており、開放的な雰囲気が漂っていた。また、入り口近くの机上には先生方の「おすすめ書籍」が写真付きで紹介されるコーナーがあり、ブックバイキングや出張貸出なども行われている。これは図書館担当の先生を中心とした羽津中学校

の精力的な取り組みの賜物である。

中学生は日々の生活の中で SNS や動画共有サービスなどさまざまなメディアで情報に触れている。Web 上で活字に触れる機会は増えていたとしても、書籍をじっくり読む時間はおそらく減少している。また、ショート動画の増加により、長時間の映像視聴が難しくなっているように感じられる。このような状況下で、書籍を読み込む機会や時間が減少するのは当然のことである。

大手スーパーが宅配サービスを提供し、フードデリバリーサービスやオンラインショッピングサービスなどが普及する中で、かつてのように学校図書館での読書と呼びかけるだけでは限界である。これからの学校では、出張貸出や電子書籍の活用など、新しい取り組みを積極的に取り入れて進化していく必要がある。新しい取組の充実のための予算措置をぜひともお願いしたい。

今回の「ハッシュタグ」を考える取り組みは、生徒が普段目にするものではない書物に触れる「きっかけのきっかけ」を与えるという点で意義深いものであった。生徒たちから聞かれた「(この本) めっちゃおもしろいやん」「ツボなんだけど」「今度、借りてみようかな」という声は、そのことの証左である。今回の取り組みが、株式会社リブネットとの連携業務であることが、先生方に過剰な負担をかけず、生徒たちに新鮮な情報を提供する取り組みが行われたことも価値があると感じた。学校が生徒たちを「本好きにさせる」というよりは、生徒たちが自然な形で「本好きになる」環境整備の方を大切にしていると感じた。これらのことが結果として、子どもたちの心と体の健全な成長につながるであろう。

【基本目標 1】確かな学力の定着（ICT 活用による情報活用能力の育成）

（選定理由）

世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力を育成することで、子どもたちは主体的に学んでいくことができる。

本市では G I G A スクール構想により 1 人 1 台タブレット端末を配備し、高速大容量の通信ネットワークの整備を進めてきた。今後は、学習の最適化、効率化を一層進める段階として、デジタル化を大前提としながら学習者主体の教育への転換を実現していく必要がある。そのため現在の取組の状況を点検し、今後の施策展開の方向性について検討する必要がある。

（視察概要）

○本市における ICT 活用による情報活用能力の育成について

重点評価項目	【基本目標 1】確かな学力の定着（ICT 活用による情報活用能力の育成）
評価内容	第 4 次四日市市学校教育ビジョン 基本目標 1 において、めざす子どもの姿を「情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して主体的に学ぶことができる子ども」とした、ICT 活用による情報活用能力の育成を推進してきた。また、重点施策の 1 つである「ICT の効果的な活用（四日市市 G I G A スクール構想）」においても、学習用タブレット

	端末や高速大容量インターネット環境を一体的に整備し、ＩＣＴとこれまでの教育で培った教育を組み合わせることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を図ってきた。 それらの取組の現状を確認するとともに、その効果や課題の検証を通して、今後の施策展開の方向性や内容の充実に向けた評価を行う。
施策の概要	(1) 情報活用能力を育成するＩＣＴを活用した教育活動の充実 ・発達段階に応じた情報活用能力の観点別到達目標の策定 ・ＩＣＴ活用についての研修会の実施 ・学習環境の整備とともに、ネットワークの拡充・整備 (2) プログラミング教育推進のための教職員研修 ・「小学校におけるプログラミング教育～四日市版カリキュラム～」の改定および研修 (3) 情報モラル教育の充実 ・情報モラル教育の研修会の実施 ・タブレット端末の持ち帰り、家庭でのルールづくり等を通して適切な情報活用
目標値と現状値	「ほぼ毎日、コンピュータなどのＩＣＴ機器を他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している」児童生徒の割合 令和６年度 小学校 37.8%（目標値（令和８年度）100%） 中学校 33.6%（目標値（令和８年度）100%）

【視 察 先】 四日市市中部中学校

【視察日時】 令和７年３月７日（金）９：３０～１１：３０

【視察内容】 中部中学校は、第４次四日市市学校教育ビジョンに基づいて策定した学校づくりビジョンにおいて、学校教育目標を「美しく生きる」としている。めざす生徒の姿としては、「自分で考え、判断し、行動する生徒（自律）」「多様性を強みとし、対話を通して協働・共生する生徒（協生）」「発想や能力を掛け合わせ、新たな価値を生み出す生徒（創発）」として、学校教育活動を進めている。

視察では、１・２年生の授業を参観するとともに、本市におけるＩＣＴ活用による情報活用能力の育成に向けた取組および施策について状況を報告し、その検証を行った。

【施策評価委員の考察と評価】

タブレット端末を活用した授業として、国語と数学の授業を参観した。国語の授業では、「走れメロス」の深い読解をさせ、読みを言語化させるための問いが教員から与えられ、生徒が自身の考えとその根拠をシートに記入（または入力）する課題であった。作業自体は紙でも可能（むしろ手書きの方がストレスなくできそう）であったが、グループ内で情報共有して他者の考えを知ること、他者の取り組みを見ることが、自身の取り組みが他者に見られることによる意義を実感した。紙（ノートやプリント）を使用する場合、真剣に取り組む生徒はよいが、作業をしているふりをする生徒や適当にする生徒も現れる可能性がある。ただし、タブレット端末を使用し、情報を共有しなければならない、また、何とか形にしなければならないというプレッシャーやモチベーションが生まれるだろう。惜しむらくは、１つ１つの問いにもっと時間がかけられるとよかった。

数学の授業では、回転体の体積と表面積を求める方法をタブレット端末で作図し、

思考させて説明させる課題であった。生徒の作図を見ていると、図は描けているものの、押さえるべきポイントが抜けており、解法につながらず、ただ図をいじっているだけという生徒も多く見られた。タブレット端末を活用する際には、回転体のイメージを可視化できるツールがあればよいと感じた。実際に図形を動かし、図形を自由に回転させて、いろいろな方向から観察する等して、立体的なイメージができるようにすると、紙ではできない方法として、空間把握力の向上に役立ちそうである。また、数学が得意そうな生徒の中には、試行錯誤を紙（本人に尋ねたところ、紙の方が考えやすいとのこと）で行い、タブレット端末では解答を清書する道具として使用している生徒も見られた。

タブレット端末を単なる清書するためのツールや共有するだけのためのツールに留まるのはもったいない。紙ではできない・やりにくいこと、試行錯誤や3次元イメージのためのツールとして活用できると、意義のあるICT活用になるのではないかな。

四日市市におけるこれまでの継続的な取り組みの成果が見られた。具体的には、学年が上がるほどICT機器に習熟している様子が見られた。生徒間での習熟度の差に対する懸念については、「小学生の時からICT機器を使っているため、かつてほど習熟に差はなくなっている」とのことであった。またタブレット端末を使いこなせる生徒は、教師側が教えなくても自分で勝手に使用することで操作方法を覚えていくようである。

少数ではあるが、紙とタブレットを併用して授業を受けている生徒がいたことから、ICT一辺倒で授業を進めることを是とするのではなく、内容に応じて、必要性に応じて、習熟度に応じて、生徒自身が選択できるような環境設定が重要になるのかもしれない。

今回の授業を見る限りにおいては、ICT機器の大きな利便性は、他の生徒の回答を共有して確認できる点にあるように思われる。例えば、自分の意見を発表して他の生徒たちと共有するのが苦手な子は、誰かから間違いを指摘されるよりは、間違いに自分で気づくことができるという利点がある。

（課題）

今回の数学の授業をみる限りにおいては、タブレット端末で確認された図形は平面的（二次元）であった。単元の内容にもよるが、今後は立体的な図形として確認・操作できるようであれば、より図形に対する理解や認識が深まるように思われる。

以下の新聞記事を読み、授業を通じて「思考する力」や「想像する力」をどのようにつけるか、その際のタブレット端末の役割とは何かについて考えることになった。

「(小学校の国語) 宮沢賢治の童話「やまなし」には、正体不明の存在「クラムボン」が登場する。何であるか明確な説明はなく、想像によってさまざまな解釈が成り立つ。しかし、神奈川県鎌倉市のある小学校では、クラムボンについて考える課題を出したところ、子どもは自ら考える前に端末で検索してしまったという」(読売新聞 2022年4月19日)

近年の先進国では、教育のデジタル化の推進に対して慎重な立場をとっており、見直しが進んでいるという報告がある。ICT教育の効果が高くなるのは、どのような条件の場合なのかについて、活用の方法についての検討を進める必要がある。

5 継続評価項目と評価

教育を取り巻く状況の急速な変化に伴い、本市においてもその変化に合わせながら施策を展開しています。そのため、教育委員会において継続して進捗を確かめるための点検・評価を行う必要がある項目をとして、第4次四日市市学校教育ビジョンにおいて様々な施策を横断的に結びつけ中心的な役割を果たす「施策の重点」について評価を行います。

＜施策の重点1＞四日市市新教育プログラムの着実な実践

（柱1）読む・話す・伝えるプログラム

読解力向上について重点的に指導するとともに、読む・話す・書くといった活動を通して、学校教育活動全体で言語活動の充実を図る。それにより、「文章を正確に理解し、適切に表現する資質・能力」を育成する。

実績	取組状況
「読解力を育む20の観点」のワークシートの作成・配付 R2：小学校高学年対象に配付 R4：中学校対象に配付（全教科対応）推進校の協力を得て問題作成 小学校中学年対象に作成 R5、R6：小学校中学年、高学年対象に配付 読解力向上推進校（小学校1校、中学校1校） 文章を正確に理解し、適切に表現する資質・能力の育成の研究 「スピーチコンテスト THE BENRON」を実施 R6：市内全体に還流させるため四日市学習ポータルサイト「こにゅうどうくん学びの部屋」で動画公開	○小学校では、朝の学習、授業中、家庭学習等でワークシートを活用し、読解力の向上の取組を行った。 ○中学校では、補充学習等の中でワークシートを活用し、読解力向上の取組を行った。 ○推進校では、国語科だけでなく教科横断的に「読解力を育む20の観点」を意識した授業づくりが行われた。その取組は「読解力向上のための手引き」等で市内に周知し、読解力や表現力向上の授業づくり推進につなげた。 ○中学生が様々なスピーチや表現方法に触れ、助言者の講評を聞いた。聞き手を納得させる構成や表現を学ぶことができた。当日の発表を「こにゅうどうくん学びの部屋」で動画公開することによって、成果等を市内の全小中学校に広めた。

（柱2）論理的な思考で道筋くっきりプログラム

本市の強みである算数・数学の力をさらに伸ばすとともに、情報活用能力の育成を図る。加えて、プログラミング体験等を通してプログラミング的思考を育むなど、これからの時代に求められる論理的思考力を育成する。

実績	取組状況
教科横断的な思考スキル等の活用 ・思考スキル、思考ツール、表現モデルを活用した授業づくり ・「論理的思考力向上のための手引き」の作成・配付	○思考スキル、思考ツール、表現モデルを活用した授業づくりについて「論理的思考力向上の手引き」にまとめ、市内に周知し、読解力や表現力向上の授業づくり推進につなげた。

論理的思考力向上推進校（小学校1校、中学校1校） 論理的思考力向上を目指し発達段階に応じた実践的・効果的な授業づくり等の研究 オンライン学習支援教材を活用した生徒の自主的な学習 「学んでE-net!」の活用方法や本市独自「記述問題ワークシート」等を教職員へ周知 プログラミング教育 小学校で発達段階に応じたプログラミング教育を実施	○推進校が校区の学校園に授業公開を実施したことで、発達段階に応じた論理的思考力の育成を目指した授業づくりについて理解を深めることができた。 ○読解記述問題や文章検定に対応したプリント、入試問題等の活用及びその目的について、校長会を通して教職員へ周知した。学校では補充学習や長期休業中の課題等として活用した。 ○論理的思考力を育むために、Scratch（プログラム作成アプリ）を用いて、児童一人一人が正多角形を描写するプログラム（小学校5年生算数科）や、光センサーが明るさを感知して電球がつく・消えるプログラム（小学校6年生理科）を作成する等、発達段階に応じて体験活動を行った。
--	---

（柱3）英語でコミュニケーション IN 四日市！プログラム

就学前から英語に出会い、聞く・読む・話す・書くの4技能を統合した言語活動により、発達段階に応じた英語コミュニケーション能力を育成し、英語で四日市を語ることで育てる。

実績	取組状況
小学校英語専科教員の配置 全小中学校へネイティブの英語指導員の配置 英語キャンプ、パフォーマンステスト、イングリッシュ LAB 等を実施 英検 IBA を中学校全学年で実施 小中連携英語学習「故郷よっかいち」を英語で紹介する力の育成 ・あすなろう鉄道 ・三岐鉄道英語アナウンス ・四日市・ロングビーチ交流プログラム	○小学校では、英語専科教員等による授業で「聞く・話す」を中心に児童の英語力育成を図った。 ○小中学校に HEF および YEF を配置し、児童・生徒に英語でやり取りをする機会を確保した。小学生対象の英語キャンプでは、英語指導員を活用した英語による体験活動を設定した。 ○英語専科教員配置等により小学校で「聞く・話す」を中心とした言語活動を経験していることで、英検 IBA の中学1年生のリスニングの正答率が他分野と比べて高くなった。 ○希望した小学校の6年生が、学習した英語を活用して、あすなろう鉄道および三岐鉄道、また駅周辺を紹介した。また令和6年度においては、中学校2校が姉妹都市ロングビーチ市の学校とオンライン交流を行った。

（柱４）運動大好き！走・跳・投UPプログラム

体育授業・運動遊び等で十分な運動量を確保し、体力・運動能力を向上させる。生涯にわたって健康を保持し、豊かなスポーツライフの実現を目的とした運動に親しむ資質・能力を育成する。

実績	取組状況
四日市市運動能力・体力向上推進委員会で検討 ・体力・運動能力の現状、課題把握 ※全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果分析冊子発行 ※保護者向けリーフレット発行 ・体力向上、授業改善に係る取組の検討・発信等 R2:【小】「新5分間運動スタートブック」等作成 R3:【中】「Warmup+新5分間運動スタートブック」等作成 R4:【小】「新5分間運動からはじめる授業づくりガイドブック」作成 R5:【小】「新5分間運動からはじめる授業づくりガイドブック2」作成 R6:【小】「新5分間運動からはじめる授業づくりガイドブック3」作成 小学校体育担当者研修会を年3回実施 体力・運動能力推進校（小学校2校） 各校の実態、子どもたちの体力の状況に合わせた授業改善の方法や体育科にかかわる学習環境のあり方の調査研究	○小学校体育科指導資料指導資料「授業づくりガイドブック3」を作成した。ガイドブック3を活用した実技講習を行うことで、学年に応じた具体的な指導方法を交流することができ、授業改善につながっている。 ○保護者向けリーフレットを作成、配付し、体力の必要性を伝えた。また、日常的にできる運動を紹介することにより、各家庭においても運動に親しめるよう啓発した。 ○休み時間等の全校遊びの設定、運動に興味を持つ掲示物の工夫など、日常的に運動したくなるような工夫を推進することができた。 ○担当者研修会においては、授業公開や理学療法士等の専門的な知見を取り入れた内容で実施したことで、運動特性に触れ、達成感や成就感が感じられる授業づくりについて深めることができた。 ○体育科の授業計画を全学年合わせて実施した。また、体育的行事に合わせて校内の掲示物を活かし、子どもたちが意欲的に運動に取り組む環境づくりの調査研究を進めることができた。

（柱５）夢と志！よっかいち・輝く自分づくりプログラム

体系的なキャリア教育の取組を通して、子どもたちが自身の夢や志の実現に向けて「学び続ける」ために、「何のために学ぶのか」という目的意識や、「学ぶこと」と社会とのつながりを意識した主体的な学習意欲を持つとともに、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成する。

実績	取組状況
四日市版キャリア・パスポートの作成・配付 R2:小6・中学生に配付 R3:全小中学生に配付 R4以降:小1・中1に配付 キャリア・パスポート推進校（小学校1校、中学校1校） ・キャリア・パスポートの効果的な活用に係る実践研究・検証	○推進校では、発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育実現のため、外部講師を招聘し各校の教育目標を行動指標（子どもの姿）として具体化する研修を行った。 ○令和6年度キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学表彰受賞8校目

・推進校の取組リーフレットを作成・配付 プレ社会人セミナー・職場体験の実施（中学校） ・ゲストティーチャーによる出前授業 ・職業に関わる様々な事業所等での職場体験活動（原則3日間実施） 道徳教育実践的研究校（小学校1校、中学校1校） 「考え、議論する道徳」の実践研究 各中学校区において子ども人権フォーラムを実施 全小中学校において、メディア・リテラシーと人権 についての出前授業を実施	○地域や企業等と連携した取組、職場体験学習、職場見学等を通して、現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成、勤労観・職業観の醸成や社会参画意識を高めることにつながる機会を設けることができた。 ○「考え、議論する道徳」の実現に向けて、子どもたちが考えを広げたり深めたりするための発問づくり等を研究することができた。また、道徳授業の指導方法の工夫や改善を図るため、推進校による公開研究会を実施することができた。 ○子ども人権フォーラムや出前授業を通して、児童生徒が身近な人権問題を話し合い、自他の人権を尊重する実践行動力の育成につなげることができた。
---	---

（柱6）四日市ならではの地域資源活用プログラム

四日市の歴史・文化・自然を活用した教育や、高度なものづくり産業と連携した教育、持続可能な社会づくりに主体的に取り組む環境教育を通して、ふるさとに対する誇りと愛着を育むとともに、四日市を語ることができる「心豊かな“よっかいち人”」を育成する。

実績	取組状況
四日市公害と環境未来館の見学 ・小学校5年生、中学校3年生で実施 市内教職員対象にESD・SDGsの研修会を実施 小学校社会科副読本「のびゆく四日市」のデジタル教材を作成 四日市学習ポータルサイト「こにゅうどうくん 学びの部屋」にデジタル教材を掲載 企業連携授業やJAXAと宇宙に関する教育活動を実施	○四日市公害と環境未来館の見学を通して、公害の事実、市民や企業、行政の取組や当時の人々の思いを知り、ふるさと四日市を大切に思い、自分たちにできることを考えることができた。 ○ESD・SDGsの研修会では、地域課題を出発点にしたカリキュラムという観点で、それぞれの学校における教育課程を見直すことができた。 ○デジタル教材の「のびゆく四日市」の活用などによって、多くの児童生徒が四日市のよさや魅力について感じたり、理解を深めたりすることにつながった。 ○企業連携授業を実施することで、教師も児童生徒も、学習内容と実社会とのつながりを実感することができた。また、JAXAの研修会に参加した教師は、宇宙航空を素材とした授業づくりについて学びを深めた。

令和6年度の取組及び評価 《四日市市新教育プログラムの着実な実践》

新教育プログラムでは、問題解決能力・言語能力・情報活用能力などの、就学前から中学校卒業までの期間に育成すべき資質・能力を掲げ、根幹となる具体的な取組を6つの柱で系統的に整理し、教職員が一貫性・連続性を意識して系統的な学校教育活動を進めてきた。

令和6年度は、「読解力」「論理的思考力」「体力・運動能力」「キャリア」について推進校を設定し研究を行った。推進校は、授業を公開したり研究の成果等を研修会で発信したりした。また、推進校の取組をまとめたリーフレットを作成し、市内公立小中学校に配付することで、授業改善のポイントや研修推進の視点として示した。

四日市市ならではの地域資源の活用においては、地元企業との連携や地域との協力をもとにして、防災や環境等に視点をおいた学習を進めた。

各プログラムの継続した取組により、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善が進んだ。

今後は、問題解決能力・言語能力・情報活用能力とともに、非認知能力を育成していくことにより、変化の激しい社会に対応することができる児童生徒を育成していく。具体的には、四日市市で育む3つの非認知能力（9つのこどもの姿）を示し、児童生徒がそのような姿を表出するような授業づくりを推進していく。

＜施策の重点２＞ＩＣＴの効果的な活用（四日市市ＧＩＧＡスクール構想）

【環境整備】

実績	取組状況
学習 e ポータル（内田洋行社 L-Gate）の導入 学習用タブレット端末で個別学習アプリ（ベネッセ社ドリルパーク、日本コスモトピア社みんなの学習クラブ）を導入 ・朝の学習や家庭学習等で活用 学校保護者連絡システム導入 ・校務支援システム（EDUCOM 社 C4th）と連携した学校保護者連絡システム（EDUCOM Home&School）を使用した学校と保護者の双方向連絡システムの導入による連絡手段のデジタル化 ネットワークの増強 ・各学校からインターネットへの接続回線を令和 4 年度に 10Gbps に増強し、クラウドの利用やオンライン教材へのアクセスを高速化 教員用タブレット端末の配備 ・小中学校の授業等における事前準備や教材研究の効率化	○学習 e ポータルの導入により、学習サイトや授業支援システム等へのアクセスとログインの簡略化ができた。 ○個別学習アプリの浸透により、朝・帰りの帯時間や家庭学習などでの取組がさらに充実した。 ○学校保護者連絡システムの利用が増えたことにより、学校だよりや重要連絡などが保護者に確実に届く機会が増加した。また、学校からの情報伝達や発信のデジタル化により印刷物が減少した。 ○インターネット接続回線の高速化により、複数学級が同時にクラウドやインターネット上の教材等にアクセスしても、フリーズしたり画面表示が極端に遅くなったりすることが少なくなったが、今後もデータ量の増加が見込まれるため、ネットワーク全体の安定性を確保し、通信速度の向上を図り、学習活動がスムーズに行えるような環境整備を進めた。 ○一人一台の教員用タブレット端末が定着し、教材研究や準備について、より効率的に行えるようになった。

【教職員研修】

実績	取組状況
校長経験者と指導主事等による指導・助言 ・ ICT 機器の活用や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに関する指導・助言 R4：全小学校各 2 回訪問 R5：全小中学校 2 回訪問 R6：全小中学校 2 回以上訪問 出前研修等 ICT 機器を活用した授業づくり研修講座 ・ 年 11 回実施 ICT 活用実践推進校公開授業の実施 R4：橋北中学校、西朝明中学校、大矢知興譲小学校、水沢小学校、河原田小学校 R5：橋北中学校、西朝明中学校 R6：指定校なし	○各小中学校の ICT 活用の実態を把握するとともに、業務改善や主体的・対話的で深い学びにつながる活用方法など具体的に指導した。 ○市内全校の ICT 推進担当教員等が集まり全国の実践例や学校ごとの好事例を共有するとともに、校内推進の検討をおこなうことができた。 ○ICT 推進担当教員等が、ICT 活用実践推進校公開授業に参加し、学習者用タブレット端末を活用した児童生徒の意見や考えの交流・発表用資料の作成方法、そのためのアプリの使用方法など、効果的な授業づくりについて、先進的な実践から学ぶ機会となった。

令和6年度の取組及び評価 《ICTの効果的な活用（四日市市GIGAスクール構想）》

1人1台学習者用タブレット端末、校内無線LAN、各教室へのプロジェクタセットを配備したことで、児童生徒がICTを活用することで学び方の転換を進めてきた。また、教職員の勤務時間を縮減につなげるとともに、学校が児童生徒の心の状況や学習状況など、児童生徒の成長や変化を蓄積されたデータとして把握することで、個々に応じた対応ができるようになった。

令和6年度においては、学校間および教師間において活用に差がみられたことから、各校のICT推進担当教員を対象に継続的な研修をするとともに、指導主事やICT推進アドバイザーが全校を訪問し、指導助言を行った。

また、令和7年3月には「四日市市学校情報化推進指針」を策定し、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）に向け、具体的な取組の方向性を示した。

令和7年度には教職員用端末が一台化になるとともに、令和8年度には児童生徒用端末の更新時期となる。そこで今後は、クラウド環境の活用および教育データの利活用について検証していくことで、学校教育の情報化をより一層推進していく。

＜施策の重点３＞学校の組織力向上（四日市市の公立学校における働き方改革 ver. 2）

【環境整備（制度設計など）】

実績	取組状況
週２日の部活動休養日の設定（中学校のみ）（H30～） 部活動ガイドラインによる生徒及び教職員の健康面を配慮し、休養日を設定 校務支援システムの導入（H31～） 出席簿、成績処理、指導要録作成等のデジタル化と児童生徒情報の一元管理 オートメッセージ付き電話の導入（R1.8～） 教職員の勤務時間外における電話対応の負担軽減 高性能コピー機の導入（R3～全校設置） 印刷業務に係る時間短縮 高学年一部教科担任制（R2～） 新教育プログラムの実現、「学びの一体化」の推進を目的とし、小学校高学年における教科担任制に対応するための実践的研究を実施 学校保護者連絡統合システムの導入（R4～） 学校と家庭の両者の負担軽減のため、学校だよりや欠席連絡など、学校と家庭間の連絡手段をデジタル化 教員用１人１台タブレット端末の配備（R4～） 授業で使用するタブレット端末による事前準備や教材研究の効率化 給食費公会計化（小学校：R4～ 中学校：R5～） 給食費徴収に係る教職員の業務負担軽減 学校閉校日（夏/冬）の設定 長期休業中における学校の対応軽減を目的とした閉校日の設定 定時退校日の設定 学校外の会議や研修のオンライン化 学校行事の見直し	○土日のどちらか１日と平日の１日が休養日になるため、生徒や教職員の健康面での配慮につながっている。 ○令和６年度より校務支援システムによる児童生徒情報の一元管理や、自動採点システムの導入など、デジタル化による効果的・効率的な学校業務体制を構築している。 ○高性能コピー機やオートメッセージ付き電話の導入により、印刷時間や夜間の電話対応の時間削減につながっている。 ○全小学校において専科教員による指導や担任の交換授業等の高学年における一部教科担任制を実施している。多面的な児童理解や教材研究等の負担減につながっている。 ○ICTを活用した保護者との情報共有・連絡調整や校務効率化により、教職員や保護者の負担軽減につながっている。一方、時間外勤務時間が多い職員は減少しているものの、一定数存在している。 ○授業資料の作成やクラウドを利用した授業準備をタブレット端末でおこなえるようになったことにより、業務の効率化を図ることができた。 ○給食費公会計化により、教職員による給食費徴収業務が削減され、負担軽減につながっている。 ○市で閉校日を統一することで、会議や研修の日も除外できるなど教職員が休暇を取得しやすくなっている。 ○各学校で月１回以上の定時退校日を設定し、時間を意識した働き方を実践している。 ○積極的に学校外の会議や研修のオンライン化を進めることで、移動時間の削減が図られている。 ○運動会を簡素化し、半日開催としたり、卒業式の慣例的・形式的な要素を見直したりしたことで学校行事の時間短縮が図られた。

【環境整備（人材の活用）】

実績	取組状況
学校業務アシスタント（市）の配置（R1より全校配置） スクール・サポート・スタッフ（県）の配置（R2.9月より全校配置） データ入力や印刷業務、書類整理、環境整備など、学校や教員が必ずしも担う必要のない業務を行う。	○学校業務アシスタント等の人材活用については学校運営の中に位置づいており、データ入力や教材の準備等、必ずしも教師が担う必要のない業務を任せることで、教職員の業務負担軽減に大きな効果をもたらしている。

【部活動地域移行】

実績	取組状況
部活動指導員/協力員の配置 ・休日部活動を持続可能な活動とするための地域人材を中心とした人材確保 R5：24名を指導員として市立中学校に配置 R6：30名を指導員として市立中学校に配置 総合型地域スポーツクラブとの連携 ・休日部活動について、総合型地域スポーツクラブが担えるよう体制を整備 R5：3クラブが3中学校と連携 「楠スポーツクラブ」楠中学校7部活動 「さんさん」三重平中学校3部活動 「うつべ☆スター」内部中学校3部活動 R6：4クラブが4中学校と連携 「楠スポーツクラブ」楠中学校8部活動 「さんさん」三重平中学校4部活動 「うつべ☆スター」内部中学校8部活動 「ビバ・橋北」橋北中学校3部活動で連携 拠点型活動 ・各競技団体・文化活動団体と連携し、拠点型の活動を行うことができるよう体制整備のための調査・研究を実施 R5：3種目の団体による活動を実施 「四日市剣道協会」⇒剣道 「三重県軟式野球連盟四日市支部」⇒軟式野球 「四日市吹奏楽団」⇒吹奏楽 R6：5種目の団体による活動を実施 「四日市剣道協会」⇒剣道 「三重県軟式野球連盟四日市支部」⇒軟式野球 「四日市ハンドボール協会」⇒ハンドボール 「四日市地区柔道会」⇒柔道 「三重県中学校テニス連盟三河支部」⇒テニス	○部活動指導員については、市内中学校の24部活動に指導員を任用し、土日の休日を中心に専門的な技術指導を行った。指導員単独での指導が可能であるため、当該部活動顧問の働き方改革につながった。 ○総合型地域スポーツクラブと各中学校の連携については、休日の練習を中心に各スポーツクラブの指導員が指導を行った。連携するクラブが増えたことで、複数校において部活動指導に対する教職員の負担軽減につなげることができた。 ○拠点型活動については、3団体がそれぞれ月に一回程度の練習会や稽古会を実施することで、休日部活動の地域展開に向けた道筋をつけることができた。 ○地域指導者による部活動指導により、教員の部活動指導に関する業務負担の軽減は一定の成果がみられるものの既存の学校部活動の種目すべてにおいて地域指導者が指導を実施できるだけの環境は整っていないため、関係者や団体への実態調査・意識調査を実施、その結果もふまえ、市の関係部局や各種協会・団体と共に環境整備に取り組む。

令和6年度の取組及び評価 《学校の組織力向上（四日市市の公立学校における働き方改革 ver.2）》

四日市市の公立学校における働き方改革として、事務的な業務の効率化、ＩＣＴを積極的に活用したデジタル化、外部人材の活用や地域連携の促進、中学校における部活動地域展開への取組により、教職員が働きやすい環境づくりを推進した。

令和6年度より校務支援システムによる児童生徒情報の一元管理や、自動採点システムの導入など、更なるデジタル化による効果的・効率的な学校業務体制を構築している。また、部活動指導に関して、総合型地域スポーツクラブとの連携、拠点型活動の実施団体を増やしたことにより、教職員の業務負担の軽減に寄与している。これらの取組により、年間720時間以上の超過勤務がある教職員の割合が小中とも年々減少している。

6 基本目標の達成状況

基本目標1 確かな学力の定着

子どもたちがこれからの複雑で変化の激しい時代を生き抜くためには、知識や技能の定着とともに、思考力、判断力、表現力をバランスよく育成することや言語能力、問題解決能力、情報活用能力など汎用的な資質・能力を育成する必要があります。

いかに社会が変化しようとも、自ら課題を見つけ、考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決できるよう、ICTを効果的に活用しながら、個に応じた指導や対話的な学びをこれまで以上に進め、確かな学力の定着を図ります。

【指標】（基本目標 1－1、1－3、1－4…全国平均値を 100 としたときの全科目の市平均値）

①「全国学力・学習状況調査」における各教科の平均正答率の平均値	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
	小学校 98.9 中学校 102.5	小学校 100.8 中学校 100.5	小学校 98.7 中学校 102.9	小学校 98.5 中学校 100.3			小学校 102 中学校 103
自己評価	令和5年度と比較し、小学校は 0.2 ポイント、中学校は 2.6 ポイント減少した。小学校においては、目的や意図に応じて、自分の考えやその根拠を書くことに引き続き課題がみられた。また、中学校においては、正答数分布グラフを令和5年度と比較すると、全体的に学力低位層に流れるとともに、二極化が進んでいる。						

②ほぼ毎日、コンピュータなどの ICT 機器を他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している児童生徒の割合	基準値 R1	R4※1	R5※2	R6※3	R7	R8	目標値
	5.7% (参考値)	調べる場面 13.1% 意見交換場面 6.5%	—	調べる場面 37.8% 意見交換場面 33.6%			100%
自己評価	令和4年度と比較し、調べる場面での使用が 24.7 ポイント、意見交換の場面での使用が 27.1 ポイント増加した。市内の全小中学校に対して、主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善が図られるよう、ICT 活用出前研修を行ったことが要因として考えられる。						

※1 令和4年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙では、設問の内容が調べる場面と意見を交換する場面にわかれたため、別々の数値を達成状況とした。

※2 令和5年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙において、設問が削除されたため、令和5年度からは三重県教育ビジョン調査の質問を元にした指標を設定し、達成状況とする。

※3 令和6年度は、令和4年度と同一の質問項目で市独自の調査を実施した。

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
③「全国学力・学習状況調査」における読解力に関連する問題の平均値	小学校 100.7 中学校 101.1	小学校 98.6 中学校 100.1	小学校 98.9 中学校 104.5	小学校 101.0 中学校 95.1			小学校 102 中学校 103
自己評価	令和5年度と比較し、小学校は 2.1 ポイント増加、中学校は 9.4 ポイント減少した。小学校では、描写を基に文章の内容を捉えることができた。中学校は文章と図を関連付けて読む問題に課題が見られた。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
④「全国学力・学習状況調査」における思考力に関連する問題の平均値	小学校 95.3 中学校 104.3	小学校 99.0 中学校 103.6	小学校 85.7 中学校 108.6	小学校 96.0 中学校 107.0			小学校 101 中学校 105
自己評価	令和5年度と比較し、小学校は 10.3 ポイント増加し、中学校は 1.6 ポイント減少した。小学校では、記述式問題の正答率が昨年度より上がっており、自分の考えを表現する力が育まれている。中学校では目標値を上回っているが、昨年度と比べ、既習の知識と関連付けて考え、数学的な表現を用いて説明することにやや課題がみられる。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑤－1「英語を使って友だちと会話することは楽しい」と肯定的な回答をした小学5・6年生の割合	82%	84%	81%	81%			90%
自己評価	令和5年度と同じ数値を保っている。英語専科教員による授業、ネイティブスピーカーである英語指導員との授業内外におけるコミュニケーションをとる機会が確保されていることが要因と考える。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑤－2 CEFR A1 レベル（英検3級）相当以上を取得している及び相当の英語力を有すると思われる中学3年生の割合	44.3%	47.0%	58.6%	57.4%			55%
自己評価	目標値を上回っているものの、令和5年度から 1.2 ポイント減少した。英検 IBA の結果より、リスニングの得点は上昇しているが、読解の観点で課題が見られた。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑥「主体的な遊びを通しての学び」について研修を行い、教育課程に反映させた園の割合	—	69%	95%	88.5% R6：幼こ 保全園対象			100%
自己評価	令和5年度と比較し、6.5 ポイント減少した。幼児教育スーパーバイザー（三重大学等と連携して派遣される専門家）の園訪問については、私立園への訪問数の増加に伴い、公立園への訪問数が令和5年度の 30 園から 13 園に減少した。また、令和6年度より指標対象が公立幼・こ・保全園に広がったことが要因の一つであると考えられる。						

基本目標2

こころとからだの健全な育成

子どもたちが生涯を通じて心身ともに充実した生活を送るためには、自己肯定感や粘り強く最後までやり遂げようとする強い気持ち、他者を思いやり協働する心とともに、生きる基盤となる健康・体力を兼ね備える必要があります。

集团的・協働的な学びの中で、人権意識の向上と行動力の育成、考え議論する道徳教育を通して、よりよく生きるための豊かな人間性を育みます。また、生涯にわたり運動好きの子どもを育てるとともに、基本的な生活習慣と規範意識の修得を図ります。

【指標】

	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
①いじめや差別は絶対にいけないと思う子どもの割合	93%	94%	95%	94%			95%
自己評価	教職員人権教育研修会の充実により、教職員の人権意識や指導力の向上を図ることができた。また、子ども人権フォーラムでは、身近な人権問題について話し合うことで、子どもたちが主体的に活動に取り組むことができた。その結果、いじめや差別は絶対にいけないと思う子どもの割合は、目標値をわずかに下回っているものの、横ばいで推移していると考えられる。						

	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
②「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 79.8% 中学校 81.3%	小学校 77.4% 中学校 89.1%	小学校 82.1% 中学校 90.5%	小学校 88.1% 中学校 93.6%			小学校 85% 中学校 86%
自己評価	令和5年度と比較し、小学校は6ポイント、中学校は3.1ポイント増加した。研修会にて「考え、議論する道徳」に向けた授業づくりを推進したことにより、各校において児童生徒が自分の考えを深めたり、考えを交流したりする機会の保障につながったと考えられる。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
③「授業時間以外に読書をする」と回答した児童生徒の割合	小学校 81.8% 中学校 66.8%	小学校 70.2% 中学校 63.3%	小学校 74.2% 中学校 65.7%	小学校 72.1% 中学校 62.6%			小学校 85% 中学校 70%
自己評価	令和5年度と比較して、小学校では2.1ポイント、中学校では3.1ポイント減少した。家庭読書をはじめ、授業時間以外において児童生徒の読書習慣が形成されていないことが要因として考えられる。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
④「運動（体を動かす運動遊びを含む）やスポーツをすることが好きである」と肯定的な回答をした児童生徒の割合※	(小)男子 71.3% (小)女子 52.0% (中)男子 63.5% (中)女子 44.3%	小学校 87.4% 中学校 84.2%	小学校 87.9% 中学校 83.4%	小学校 88.8% 中学校 83.3%			小学校 94% 中学校 88%
自己評価	肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小中学校ともほぼ横ばいとなっている。小学校では、教師用指導資料の活用促進や担当者研修会の充実を図ることで、児童の達成感や成就感につながる授業づくりが推進されていると考えられる。中学校では、運動好きの生徒を育てるための具体的な授業イメージについて、共有されていないことに課題があると考えられる。						

※ 令和4年度以降は「好き」「やや好き」と肯定的な回答をした児童生徒の割合の男女平均値

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑤学校三師や関係機関と連携し、専門的な知見を活かした学校保健委員会や保健教育、研修会等を2回以上開催した学校数	8校 小学校 2校 中学校 6校	59校 小学校 37校 中学校 22校	59校 小学校 37校 中学校 22校	59校 小学校 37校 中学校 22校			30校 小学校 19校 中学校 11校
自己評価	指標内容を実施し、目標値を達成した。学校三師や専門性を持つ外部講師等を活かした学校保健委員会や研修会を実施することで、児童生徒の健康問題を協議し、具体的な改善方法等を考えることができた。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑥食育に「関心がある」と回答した児童生徒の割合	—	小学校 81.1% 中学校 66.7%	小学校 82.8% 中学校 68.6%	小学校 81.5% 中学校 70.2%			100%
自己評価	令和5年度と比較し、中学校では1.6ポイント増加した。小学校では1.3ポイント減少したが、指標設定時の令和4年度と比べ、高い数値を維持している。特に中学校においては、給食時間を利用した栄養教諭等から食に関する指導が、短時間ながらも効果的に実施できたと考えられる。						

基本目標3

よりよい未来社会を創造する力の育成

子どもたちが夢や志を持ち、その実現に向けて行動に移していくためには、主体的に自ら学ぶ意欲と、他者との人間関係を形成するためのコミュニケーション能力を育成する必要があります。

地域に愛着と誇りを持ち、持続可能で暮らしやすい未来社会を担う自立した人間に成長できるよう、四日市ならではの地域資源を効果的に生かし、日々の学校生活全体をキャリア教育の視点で捉えながら、社会のつながりを意識した教育活動を進めます。

【指標】

①「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
	小学校 82.0% 中学校 70.0%	小学校 77.3% 中学校 70.5%	小学校 80.1% 中学校 70.9%	小学校 81.9% 中学校 71.3%			小学校 85% 中学校 75%
自己評価	令和5年度と比較し、肯定的な回答をした児童生徒の割合が小学校は1.8ポイント、中学校は0.4ポイント増加した。児童生徒の交流を伴う取組や地域、企業、社会人講師等と連携し、体験を通して学ぶ機会の確保を促進してきたことが要因の一つであると考え。また、キャリア教育担当教員を対象にした研修での具体的事例や方法の紹介に加え、四日市市での取組を発信する機会を設けてキャリア教育への機運を高めてきたことも4つの基礎的・汎用的能力の育成につながる取組が充実したことの要因となっている。						

②-1 見学をとおして、ふるさとへの愛着をもつことができた児童生徒の割合	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
	小学校 85% 中学校 80%	100% ※1	100%	94.8% ※2			小学校 95% 中学校 90%
自己評価	現地の文化財や史跡で、学芸員や指導主事、ボランティアガイドが解説したり、拓本体験や勾玉づくりなど体験活動を取り入れたりしたことによって、文化財のよさや魅力を多くの児童生徒や教員にも感じてもらうことができた。						

※1 見学をとおして、地域の歴史について興味や関心を深めたり理解を深めたりすることができたと回答した学校

※2 見学をとおして、地域の歴史について興味や関心を深めたり理解を深めたりすることができたと回答した児童生徒の割合

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
②-2 見学をとおして、星や宇宙に対して興味・関心を示すことができた児童生徒の割合	小学校 85% 中学校 80%	—※1	100%※2	100%			小学校 95% 中学校 90%
自己評価	令和5年度同様、目標値を上回っている。児童生徒の集中力を継続させるプログラム内容で学習投映を行ったことが要因として考えられる。						

※1 施設工事による休館等、利用の制限があったため、R4については数値なし。

※2 学習投影を見た市内小中学校に対するアンケートのうち、星を含めた天体に関して興味・関心をもてたと回答した学校の割合

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
③－１ 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 55.7% 中学校 42%	小学校 50.7% 中学校 43.4%	小学校 79.1% 中学校 70.2%	小学校 85.9% 中学校 79.8%			小学校 60% 中学校 70%
自己評価	肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小中学校ともに令和5年度より増加した。その要因として、総合的な学習の時間を中心に、地域課題の解決に向けて系統立てて取組む活動を推奨したり、「四日市公害と環境未来館」の見学において、自分事で課題解決を図ろうとする意欲につながるプログラムを設定したりしていることが背景にあると考えている。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
③－２ 「地球環境を守るための行動をしたと感じるようになった」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 85% 中学校 80%	—※1	小学校 89.1%※2 中学校 90.9%※2	小学校 94% 中学校 97%			小学校 95% 中学校 90%
自己評価	「四日市公害と環境未来館」の見学については、四日市公害の歴史（小学生は公害の発生と被害、中学生は四日市公害裁判の意義と環境改善の取組）や環境問題を自分事として捉えて学べるものとなっている。また前後の学習活動と関連し持続可能で教科横断的なものとなるよう、事前に各学校の教員と綿密に打ち合わせを行っている。そうした取組により、令和6年度の児童生徒への理解度と学習効果のアンケートでは、令和5年度と比較した際に肯定的な回答の割合の増加につながったと考えている。						

※1 施設工事による休館等、利用の制限があったため、R4については数値なし。

※2 三重県教育ビジョン調査の質問項目のうち、環境教育・環境保全活動推進に向けた取組等を元にして指標に対する結果を数値化した。

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
④「学校教育活動、学校経営の評価」における、「日常生活に生きる安全教育の充実」の質問項目での評価の平均値	小学校 3.5 中学校 3.1	小学校 3.4 中学校 3.3	小学校 3.5 中学校 3.3	小学校 3.6 中学校 3.4			小学校 3.8 中学校 3.5
自己評価	令和5年度と比較し、小中学校ともに0.1ポイント増加した。学校安全計画や防災教育計画に基づき、安全や防災への知識や実践力を高める指導が定着してきている。また、学校安全担当者研修会において、道路管理や危機管理の担当部署と適切に連携を図ったことも評価につながった要因として考えられる。						

基本目標4

全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現

少子高齢化に伴う地域社会の変容、人間関係の希薄化、家庭環境の多様化など、コロナ禍も相まって、子どもを取り巻く環境の変化に拍車がかかっています。

学校教育が「ひとづくり」の場であればこそ、誰一人取り残すことのない学びの保障に向けて、子ども一人一人が、それぞれのニーズに応じた学習の機会を得られるよう、全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現を目指します。

【指標】

①ー1「国語の授業の内容はよく分かる」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
	小学校 86.1% 中学校 82.5%	小学校 84.9% 中学校 83.8%	小学校 86.0% 中学校 85.3%	小学校 87.5% 中学校 86.7%			小学校 90% 中学校 88%
①ー2「算数・数学の授業の内容はよく分かる」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
	小学校 84.6% 中学校 80.7%	小学校 79.7% 中学校 79.5%	小学校 82.9% 中学校 82.7%	小学校 84.1% 中学校 80.1%			小学校 90% 中学校 85%
自己評価	令和5年度と比較し、国語においては、小学校は 1.5 ポイント、中学校は 1.4 ポイント増加した。算数・数学においては、小学校は 1.2 ポイント増加、中学校は 2.6 ポイント減少した。全小中学校において、少人数授業や習熟度別授業、ティーム・ティーチングなどの授業を実施し、きめ細かな指導の中で個に応じた指導の充実が進められた。中学校数学においては、教師と子どもがICT教材を活用するなどして学習進度や学習到達度を把握し、内容理解のために個に応じた指導の充実を進めることが課題である。						

指標	基準値 R2	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
②相談支援ファイルを作成している児童生徒の割合	7.7%	8.9%	9.0%	9.6%			8.8%
自己評価	令和5年度と比べ 0.6 ポイント増加した。特別支援教育 Co 等を対象とした研修会や学校訪問の際に、相談支援ファイル活用に係る内容を充実させたことで、教職員への理解が進み、作成の促進につながったと考えられる。						

※ 学習指導要領において、特別支援学級在籍児童生徒及び通級による指導を受ける児童生徒は相談支援ファイル（個別の教育支援計画・個別の指導計画）を作成することになっている。

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
③ J S L 対話型アセスメントDLA（四日市版）を活用して日本語指導等を行った学校の割合	—	23.9%	55.6%	46.9%			100%
自己評価	令和5年度より8.7ポイント減少した。初期適応指導教室「いずみ」では、DLA を活用し、日常の指導や各学校への引継ぎで活用しているが、各校に向けた目的や実施方法、活用方法等の定期的な活用推進は十分ではなかったと考える。						

指標	基準値 R2	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
④ 中学3年生不登校生徒の卒業後進路（進学・就職）決定率	96%	91%	93%	97%			100%
自己評価	令和5年度と比べて4ポイント増加した。早期からの計画的な進路指導やSSW等を活用した関係機関につなぐ取組等を強化したことで、中学卒業後の進路決定率の上昇につながったと考えられる。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑤ 学校基本調査における中学校卒業後の高等学校等進学率	98.9%	98.8%	98.8%	98.9%			99.5%
自己評価	令和5年度と比較し、0.1ポイント増加した。進学を希望する生徒に受けられる制度や支援についての適切な情報を周知したことに加え、生徒一人一人の実情に応じた進路指導ができるよう指導助言を行ったことが進学率上昇の要因と考えられる。						

基本目標5

学校教育力の向上

子どもたちが安全・安心な学校生活を送り、意欲的な学びを継続することのできる教育環境をつくるためには、組織的かつ計画的な教育活動に取り組むなど、よりよい学校教育をめざすカリキュラム・マネジメントを踏まえた学校運営を進めることが重要です。

学校と家庭・地域・関係機関・専門家が連携し、「チーム学校」としての組織力を強化することで、学校教育力の向上を図ります。

【指標】

	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
①「学校評価」における「学校経営の充実」に係る質問項目の平均値	小学校 3.3 中学校 3.2	小学校 3.3 中学校 3.2	小学校 3.3 中学校 3.3	小学校 3.3 中学校 3.2			小学校 3.4 中学校 3.3
自己評価	学校経営の充実に係る質問項目の平均値は、ほぼ横ばいとなっている。学習者の理解と対応や安全安心な教育環境づくりの充実を図るとともに、PDCA サイクルを継続し、学校経営を改善することが必要である。						

	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
②超過勤務年720時間以上の教職員数の割合	小学校 10.8% 中学校 33.3%	小学校 3.3% 中学校 15.2%	小学校 2.6% 中学校 19.2%	小学校 2.1% 中学校 14.8%			小学校 0% 中学校 0%
自己評価	小中学校とも目標値に近づいており、平成30年度以降、推進している「学校業務サポート事業」による学校業務の適正化の取組が、着実に成果を上げている。中学校では部活動において、段階的な地域展開を含めた在り方の見直しが進められていることも『超過勤務年720時間以上の教職員数の割合』の減少に影響したと考えられる。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
③「学校に行くのは、楽しいと思う」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小6 85.0% 中3 84.0%	小6 84.1% 中3 85.3%	小6 85.0% 中3 86.1%	小6 83.8% 中3 86.6%			小6 90% 中3 90%
自己評価	基準値である令和元年度から、小学校では増減を繰り返している。児童を取り巻く環境は複雑化してきており、いじめや友だち関係など、人間関係の課題が学校生活における充実感や安心感に影響していると考えられる。中学校では一貫して増加しており、生徒のSOSに対して早期発見、早期対応できた結果だといえる。また、この早期の対応により、教師と生徒の関係性も向上し、問題の悪化を防ぐことができた。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
④新教育プログラム 6つの柱を意識した 一貫性・連続性のある 指導をした中学校 区数	—	21 校区	21 校区	21 校区			21 校区※
自己評価	すべての中学校区において、新教育プログラムを意識した取組を進めることができた。今後も新教育プログラム、四日市市就学前教育・保育カリキュラムを踏まえ、発達段階に応じた取組を充実させるとともに、幼稚園・認定こども園・保育園・小学校・中学校がより一層の連携を図り、教職員が指導方法や指導体制を共通理解し、つながりを意識した取組を進めることで、一貫性・連続性のある指導を実現できるよう努めていく。						

※ 三滝中、三重平中は同一中学校区として取組を進めているため

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑤地域人材を活用した 取組や出前講座 (生活リズムや万引き 防止、eネット安心 講座等)がカリキュ ラムに位置づいて いる学校の割合	—	地域人材活用 100% 出前講座 44%	地域人材活用 100% 出前講座 90%	地域人材活用 100% 出前講座 85%			100%
自己評価	地域の人々の理解と協力を得た教育活動の実現に向けて、四日市版コミュニティスクール運営協議会等を通じて、地域協力者の活用を支援していることが、目標値の達成に寄与していると考えられる。 出前講座のカリキュラムへの位置づけは、令和5年度と比較して5ポイント減少した。インターネットによるトラブルに巻き込まれないための取組は、市内全小中学校で進められているものの、その取組がカリキュラムに位置づいていない学校があることが減少した要因であると考えられる。						

指標	基準値 R1	R4※1	R5※1	R6※2	R7	R8	目標値
⑥教職員が、校内外 の研修や研究会に参 加し、その成果を教 育活動に積極的に反 映させている学校の 割合	42%	56%	81%	61%			100%
自己評価	令和元年度と比較すると(令和4・5年度とは調査及び集計方法が異なるため)、「校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている。」と回答した教職員が19ポイント増加した。また、肯定的な回答をした学校は100%であった。1人1台端末を活用した授業づくりやいじめ・不登校対応、特別支援教育といった教職員のニーズや悩みに寄り添った研修内容を用意し、さらに、授業公開と講演会の二部制で構成する研修会を企画するなど、研修内容をすぐに生かせるものにすることが増加の要因と考えられる。						

※1 令和4年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙の設問から本項目が無くなったため、教育支援課が毎年度独自に小中学校教職員対象に調査している研修活用調査の設問「受講した講座内容を教育活動に活用しましたか」の回答において、肯定的な回答をした教職員の割合が100%の学校の割合を達成状況とした。

※2 「みえ元気プラン及び三重県教育ビジョンの目標指標等の進捗状況に関する調査」において、令和元年度（R1）と同様の質問項目で評価した。

指標	基準値 R2	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑦学校施設整備計画に基づく施設整備の実施率※1	小学校 2%※2 中学校 7%※2	小学校 22% 中学校 14%	小学校 33% 中学校 24%	小学校 48% 中学校 28%			小学校 74% 中学校 48%
自己評価	高花平小学校の校舎改築工事に伴う運動場整備を完了すると共に、三重西小学校、常磐西小学校、川島小学校、八郷西小学校、日永小学校、中部中学校の大規模改修工事など、計画していた整備を実施し、良好な学習環境の確保と施設の長寿命化を図った。						

※1 令和2年度からの総合計画にあわせ、令和11年度に100%の目標達成とする整備計画

※2 令和2年度からの整備計画のため、令和2年度の実施率を記載

7 教育施策評価委員の提言及び助言（総括）

織田 泰幸 委員（三重大学教育学部教授）

基本目標 2「こころとからだの健全な育成」（読書活動の充実）

学校における読書活動では、昔ながらの図書室における環境整備（例：新刊図書の紹介、教員による図書案内）だけでなく、ブックバイキング、出張貸出、電子書籍の活用といった新しい試みが始まっている。学校ごとの創意工夫を生かした取り組みと民間企業との連携を通じた取り組みの組み合わせが功を奏しているように思われる。

基本目標 1「確かな学力の定着（ICT 活用による情報活用能力の育成）」

令和元年度から開始された GIGA スクール構想から 7 年が経過しており、教員と児童生徒はともに ICT の日常的な利活用を進めている。ICT は操作方法の習得（どのように活用すればいいか）の段階から、より効果のある操作方法（教育効果をさらに高めるためにどのように活用すればいいか）を習熟する段階へと移行している。いっそう高いレベルでの ICT の習熟を目指すためには、情報活用能力の指針を活用しつつ、見通しをもった取り組みを継続する必要がある。

基本目標 1 および 2：教育先進国とされてきたフィンランドの動向からは、デジタル重視から紙の教科書に戻す動きがみられる。四日市市の場合、将来的にはいずれの方向に進むかの選択を迫られる時期が来るかもしれないが、現状では、紙かデジタルかの二者択一的な発想ではなく、両者の共存と絶妙なバランスの模索を続けながら教育効果の検証を継続的に実施する必要があると思われる。

2. 専門職としての教師集団の質の向上を目指す施策の実現へ

1980 年代以降の OECD の報告書は、学校における教育成果の向上に最も重要な意義を持つ要因として、教師の質(quality of teacher)を繰り返し挙げてきた。この指摘は現在でも有効であるが、近年いっそう重視されているのは、個々の教師の質というよりは、集団としての教師の質である。教師たちには、お互いに学びあい高めあう教師の集団として、同僚性や協働性を基礎として専門性を高めていくことが期待されている。四日市市教育委員会として、基本目標の達成と実現を目指す場合、①学校と対話を行い、それぞれの学校の実情を踏まえた積極的な支援を継続すること、②専門職としての教師の試行錯誤を後押し、学校における教師が集団やチームとして「能力」を高めるための一貫性のある方策を考案すること、③そのための予算的措置を行うこと、が必要になるのではないだろうか。

3. 私たち大人が模範となれるように

全般的に見れば、子どもたちの姿は大人たちの姿の反映であり、子どもたちの問題は大人の側の問題でもある。学校の場合、教師個人ではなく、教師集団の質が問われることになる。子どもたちに探究的で協働的な学びあいの意義や価値を伝えたいのであれば、教師集団が探究的で協働的な学びあいを実践する必要がある。四日市市教育委員会として、読書活動や ICT 活用を通じて学校における質の高い教育活動の創造を目指すのであれば、学校の教師たち自身が読書活動や ICT 活用の面白さを探究し、その愉しさを体感し、成長を実感し続けるための自己研鑽や研修活動のために時間と費用を投資する必要がある。そのための予算確保と資源の投入をぜひともお願いしたい。

令和 6 年度の 2 つの重点評価項目について評価するとともに、今後の課題となりうる点について述べる。

①基本目標 2 こころとからだの健全な育成（読書活動の充実）について

授業視察した中学校の図書室での授業作りを見て、読書離れが進む中、読書や本に興味を持ってもらおうと工夫して取り組んでいる様子は十分に見受けられた。これを、表面的なその場限りの活動で終わらせずに、いかに本を最後まで読みきり、深く読み、継続的に読書をするにつなげていくかが課題であろう。そのためにも、図書室の利用時間の拡大が必要である。視察した学校では図書室を自由に利用できるのはほぼ昼休みだけ。これでは、お目当ての本があって借りに行くだけならできるが、目当ても無く書架をうろついて興味をひくものをゆっくり探す、図書室という非日常で異空間のような場所で時間を過ごす、ということができない。こういう時間の過ごし方をするのが、真の本好き、図書館・書店・古本屋好きを生むこと、知の森に分け入ることの喜びを知ること考えると、利用時間は是非とも伸ばしたいところ。必ずしも教員が関わらなくてもよいので、せめて週 1、朝の授業前や放課後に 1 時間は利用できるようにしたい。

②基本目標 1 確かな学力の定着（ICT 活用による情報活用能力の育成）

1 人 1 台タブレットが進み、授業視察でも、生徒たちが当たり前のものとして活用している様子が見受けられた。特に、クラスの皆でその場で意見を共有できるシステムの活用で、共有できるだけでなく、その場の全員が今参加している、自分の意見も見られている（皆に見てもらえるという嬉しさと、見られるからさばれないというひきしめ）という実感を持つことができ、従来の紙を使ったやり方ではできない有効な手段だと思われた。一方で、紙に鉛筆の方が試行錯誤しやすく、思考の痕跡も残しやすい（タブレットだと消してしまう）課題に取り組む際には、タブレットがむしろ邪魔になっている場合もあった。タブレットおよびアプリだからこそできること、有利なことを意識して活用したい。以下、現時点だけでなく今後問題になりうる点をいくつか挙げる。

・集めた情報の精査不足

書籍や教科書、参考書で情報収集するのと同じ感覚でネットで集めた情報を正しいものと安易に使いがち。専門家が書いたとは限らないものがネットの記事は、見極めが必要があることを承知する必要がある。

・ネット上に答えがあると思い込み、探しに行くという心構えの問題

集めた情報から答えを自分で考えるのではなく、答えを探しにいくというのでは、思考力は育たない。答えがネット上にあると安易に思うのも問題。

・生成 AI に考えまで作らせる危険

以前の問題は上記のような、ネット上に答えを探し、それらしいものを見つけたらそれを盗用してしまうというものであった。しかし近年、課題そのものを AI にさせる、つまり、ネット上に答えを探していろいろと読むということすら省略して AI に丸投げし、AI が作った解答を自分ではチェックしない、という問題が散見されるようになってきた。生成 AI をアシスタントとして使い、自分は考えることに注力するというならよいのだが、考えることを放棄して丸投げするようでは、人間（自分）にしかできない、人間らしい能力を育てることができない。海外・留学生に比べると日本ではまだこの問題は顕発はしていないが、今後、増えていくと予想される。生成 AI に使わせ方を考えていく必要があるだろう。

＜参 考＞

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。